



3月定例議会〔2月19日～3月18日〕

いよいよ 新年度が始まってまいります。最大の課題は何と言っても景気回復であり、雇用の創出です。定例議会で審議された県の二十二年度予算は5年ぶりに六千億円台に復活し、その積極性が打ち出されたものと存じます。しかし、県単独では各事業に限りがあり、国の予算や交付金、各基金を充分に活用していかなければなりません。さらに、新政権による子ども手当の創設、農家への戸別所得補償や公共事業の削減等の新スキームがどのように県内に影響を及ぼすものか、注視が必要となります。

吉村知事は、第3次山形県総合発展計画の中で、短期アクションプランを至急に力強く発進したい旨を表明しており、今回の報告にその主旨を掲載いたしましたのでご査証いただければ幸いです。

伊藤重成 県議会報告

レポート

Vol.11

ホームページ <http://shigenari.us/>

■発行者/伊藤重成
 ■連絡先/〒999-4605 山形県最上郡舟形町長沢306
伊藤重成事務所
 TEL.0233-33-2755 / FAX.0233-33-2756
 ■メール/kengi-ito@estate.ocn.ne.jp

加藤選手・太田選手の五輪報告

バンクーバーオリンピックに出場した、県出身の加藤条治選手は、スピードスケート男子500mで銅メダルを獲得。またパラリンピックに出場した太田渉子選手は、ノルディックスキー距離女子スプリント立位で銀メダルを獲得しました。メダルは思いのほか重いものでした。心よりお祝い、お喜び申し上げます。

昨年のサッカー、モンテディオ山形J1残留に引き続き、スポーツ分野での県勢の活躍は県民に夢と希望を与えてくれます。県議会のスポーツ振興議員連盟は全議員が参加しており、会長の職にある私としては、今後もことあるごとに、応援、情報発信してまいりたいと考えております。



加藤条治選手の銅メダル



右から加藤条治選手、佐貝議長と私



太田渉子選手も報告に来てくれました

地域密着型複合施設「ほなみ」完成

現在、最上地方では特養等の施設入所待機者が約700名ほどおいでになり、未だ増加の傾向にあります。その対策として、国は昨年度より基金を創設し、法人・自治体に協力をいただいた上で、施設の新築、増床を計っています。22年度は戸沢村、鮭川村での計画がありますが、積極的に支援したいと思います。昨今、「コンクリートから人へ」というキャッチフレーズが流行しましたが、私が思うに政治、行政は、「人から人へ」が基本であり、適切なものは、各施設、道路等をつくり、多くの人に利用してもらう事が本筋です。「ほなみ」は、社会福祉法人舟和会が統合した旧保育所を改築し、開設したもので、21年度は他に金山町の特養において増床が計られました。



舟和会の井上理事長と共に

最上町すこやかプラザ落成式

山形県初の認定子ども園「最上町すこやかプラザ」が完成しました。



少子化社会における子育て支援の中核施設として整備されたもので、幼保一元を図り、子育て世代をはじめ異世代間のコミュニティー活動を充実し、地域ぐるみの子育てを実践・支援する場を創出するうえで、大きな期待がもたれており、NPO法人も入所し、施設内で学童放課後支援を行います。

ホンモロコ・わさびの試食会

大蔵村に新名物が生まれつつあります。ひとつは高級淡水魚のホンモロコ、そしてもうひとつはわさびです。共通点は天からいただいた名峰月山の湧き水で育てられています。私の食味食感から言えば、ホンモロコは天ぷらやフライがとても美味しかった。わさびはそばつゆの薬味の時は清々しい香り^{すがすが}と甘いような辛さ、板わさの薬味の際はビシッと^{すがすが}した辛さが印象的でした。

このように各地でみんな一生懸命努力工夫しています。第6次産業という産業に乗り遅れないよう、県もしっかりと後押ししなければなりません。

